

通所控えで症状が悪化

「『れほど』短期間で身体機能が衰えるとは…」

二重県内で義母(63)を在宅介護する女性(55)は、デイサービスに行けなくなった義母が三週間で自立歩行ができなくなつた姿に、やるせない気持ちでいる。

義母は要介護3。同じ施設で週五日のデイサービスと月一回のショートステイを利用してきたが、四月中旬、ショートステイを利用中に三七・五度の発熱があり、引き取りを求められた。風邪と診断され、熱は下がったが、せきが続ぎ施設から利用を断られたといつ。

デイサービスで体操などをすることで筋力を維持してきたが、今は車いすの生活だ。

コロナ禍デイサービス直撃

新型コロナウイルス感染拡大の影響で、在宅の要介護者を一時的に預かるデイサービス（通所介護）やショートステイ（短期入所）が休業したり、利用者が通所を控えたりして、これまで通りの介護やリハビリを受けられず、要介護者の状態の悪化や家族の負担増が懸念されている。名古屋市など一時、休業要請の出た自治体では施設の職員が自宅を訪問したり、電話をかけたりしたが、今も手探りで、経営は厳しさを増している。

（細川暁子）



デイサービスなどが利用できず、家に閉じこもる孫(6)を手伝い、北陸地方の女性(60)は近所で一人暮らしをする義母(75)を扶助する。夫(70)と一緒に暮らしで、夫が隣の居間で寝る。「ストレスがたまるが、我慢するしかねない」。

筋力の衰え、もの忘れ

家族の負担増

ただ、義母はデイサービスの前の晩に洋服を用意するなどして毎日の感覚を保っていた。最近は「今日は何曜日」と聞くように。電気ポットの

厚生労働省の調査では、四月二十日現在、自治体の要請や事業所の判断などで通所施設を中心に、全国で八百五十八の事業所が休業。全体の1%ほどだが、在宅介護に詳しい東洋大の高野龍昭准教授（55）は「休業はしていないても一日の定員を減らしたり、サービスを絞つたりして多くの事業者が業務を縮小しているのが実態」と話す。

が五月に全国のケアマネジャーら約五百人に行ったインターネット調査では、六割以上が、デイサービスなどの利用控えなどで利用者に心身の機能低下があると指摘した。

自由記述では「社会から離れて、うつ状態」「転倒して自己歩行が困難」などと本人の二ヶ月間利用を自粛。生きがいの「ーラスサークルも休止で、以降もの忘れがひどくなっている」「認知症の人が外出する」と、高齢者による現状を訴える声もある。

院長の林泰史さん（60）によると、高齢者が全く運動をせず安静にしていると筋力は三週間で半分ほどに衰える。戻すには三～五倍の時間がかかるという。林さんは「社会との交流が減り、高齢者が生きる気力も失つてしまつ」とが心配。デイサービスなどを休んでいる場合は「一日二十～三十分は散歩して筋力維持を」と呼び掛ける。

が五月に全国のケアマネジャー

ら約五百人を行ったインターネット調査では、六割以上

が、デイサービスなどの利用控えなどで利用者に心身の機能低下があると指摘した。

自由記述では「社会から離れて、うつ状態」「転倒して自己歩行が困難」などと本人の二ヶ月間利用を自粛。生きがいの「ーラスサークルも休止で、以降もの忘れがひどくなっている」「認知症の人が外出する」と、高齢者による現状を訴える声もある。

院長の林泰史さん（60）によると、高齢者が全く運動をせず安静にしていると筋力は三週間で半分ほどに衰える。戻すには三～五倍の時間がかかるという。林さんは「社会との交流が減り、高齢者が生きる気力も失つてしまつ」とが心配。デイサービスなどを休んでいる場合は「一日二十～三十分は散歩して筋力維持を」と呼び掛けた。

5/27 月

職員、り訪問 支援手探り

三月にティサービスでクラスター（感染者集団）が発生した名古屋市は、緑区と南区の計百二十六事業所に一週間の一斉休業を要請した。現場の介護関係者はどのように利用者の健康を守ろうとしたのか。

約七十人が利用登録する南区の通所介護施設「ほのかりハピリティサービス」は感染者はいなかつたが、要請に応じ施設を休止。施設長で理学療法士の中島雅斗さん（三〇）によると、利用者には一人暮らしも多く、安否確認を兼ね、訪問によるサービス提供を続けた。

職員四人が、ほぼ全員の自宅を手分けして訪問。血圧を測るなどの健康チェックや、筋肉の衰えを防ぐ体操指導などを行った。最も心配だったのは、食事。一人暮らしで認知症の人や、普段から家に閉じこもって買い物にも行かない利用者もいたからだ。

施設では普段から近くの弁当店の食事を昼食として利用

者に提供しており、保健所に確認した上で、職員が同じ弁当を希望者宅に届けた。南区で一人暮らしをする長谷川春子さん（六〇）も中島さんに弁当を届けてもらつたといい、「どこにも行けず心細い中で、様子を見に来てくれてありがたかった」と振り返る。

ティサービスは本来、施設で体操や食事、入浴などのサービスを提供する。新型コロナの感染拡大を受け、厚生労働省は特例として、施設の職員が利用者宅を訪問してサービスを利用者もおり、送迎バスは施設が訪問に取り組んだとみられる。

ただ、影響は今も色濃く残る。ほのかは三月下旬から再開したが、現在も十人が利用を自粛。中には、「ティサービスに通っていると近所から白い目で見られる」と訴える利用者もあり、送迎バスは施設名のステッカーを外して運行している。利用者が減り施設の三月の収入は三割も減少する見込みといい、中島さんは「大打撃」と話す。

高齢者の介護計画を作るケアマネジャーたちも、手探りで複数の施設を利用するようにした。名古屋市では「どこでも、介護報酬が入るようとした。名古屋市でつた」とでも、介護報酬が入るようとした。名古屋市で

高齢者は複数の施設を利用しているケースが少なくなつたことでも、介護報酬が入るようとした。名古屋市でつた」とでも、介護報酬が入るようとした。名古屋市で

高齢者は複数の施設を利用しているケースが少なくなつたことだ。大河内さんは女性の家族から教えてもらったが、中には同居家族が感染疑いで市の健康観察対象者になつていることを知らず、利用者宅を訪問したケアマネもいたといつ。

高齢者は複数の施設を利用しているケースが少なくなつたことだ。大河内さんは女性の家族から教えてもらったが、中には同居家族が感染疑いで市の健康観察対象者になつていることを知らず、利用者宅を訪問したケアマネもいたといつ。

ただ、普段からヘルパーが不足している中で、新規での派遣は難しく、家族に介護を頼んだケースが少なくなかつた。

感染者のいる家庭はさうに過酷だった。大河内さんはクラスターが発生した施設を利用する七十代の女性を担当していた。女性は陽性反応が出たが、病床がいっぱいですぐには入院できず、自宅で四日間療養。その間は介護サービスが受けられず、女性の家族が介護をすべて担つたという。

混乱の中、ケアマネや事業者の動きをさらに難しくしたのが、クラスターが発生した施設名などの感染に関する情報が、人権への配慮などで市

休業要請受けた名古屋の事業所



ティサービスで歩行訓練をする長谷川春子さん（左）。施設の休業中は職員が弁当を配達してくれ「助かった」という=名古屋市南区で

感染情報の共有も課題

混亂の中、ケアマネや事業者の動きをさらに難しくしたのが、クラスターが発生した施設名などの感染に関する情報が、人権への配慮などで市

新型コロナウイルスと介護に関する悩み、課題、体験談をお寄せください。宛先はこのページの左端。